

## 事業所名 グループホーム小町

## 運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 4年 2月 25日 (金) 時 分～ 時 分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	3名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答
地域包括支援センター職員	1名	5 身体拘束適正化検討委員会の議題
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会議録		
<p>☆2/25 開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催を行います。</p> <p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 1/21 から愛知県ではまん延防止等重点措置が発令されました。グループホーム小町では、1/17 より特別な事情（緊急・看取り等）がある場合を除き、原則すべての方のご面会を禁止しております。</p> <p>いまだ厳しい状況が続いていますが、感染拡大を防ぐ為、職員一人一人が人込みを避け、マスクの着用、手洗い、うがい、手指消毒を実施し、三密にならない様危機感を持ち、自己管理を徹底していきます。ご家族様へは大変ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんが、ご理解頂ければと存じます。</p> <p>2月に入り、寒い日が続いております。利用者様その他介護職員一同、体調を崩さない様、衣類の調節や十分な水分補給、休息を行い、健康管理に努めつつ、安心安全な体制でグループホームでの業務に取り組んで参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。</p> <p>☆中止に伴い出席予定者にレジメを文書で報告・意見照会を行いました。 意見照会(瀬戸市役所高齢者福祉課 1名 家族様 0名 民生委員 0名 地域包括支援センター1名 地域住民代表 3名)</p> <p>1. 行事報告 【12月】 21日 クリスマス会を行いました。</p>		

## 【1月】

- 10日 初詣に八王子神社へ行き、参拝をしました。
- 13日 入居者様全員3回目の新型コロナウイルスワクチン接種を致しました。
- 16日 利用者様のお誕生日会を行いました。

## 【2月】

- 7日 恵方巻と節分を行いました。
- 10日 お誕生会を行いました。手作りフルーツケーキを召し上がりました。
- 14日 訪問理美容を行いました。

### 2. 今後の行事予定

- 3月5日 ひなまつりを予定しております。
- 3月31日 お花見を予定しております。

### 3. 利用者様状況報告(令和4年2月25日現在)

- ・利用者様 9名(女性9名 男性0名)
- ・平均年齢 88.1
- ・平均要介護度 2.3

### 4. 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答

#### ご意見①

1月17日から特別な事情がある場合を除き、原則すべての面会を禁止としているとのことですが、入居者やご家族の交流等の方法で、工夫をされていることや、面会の代替えとして何か取り組んでいること等があれば教えてください。(瀬戸市役所高齢者福祉課)

#### →①のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご質問ありがとうございます。現在も引き続き原則面会の禁止をさせて頂いております。病院や特別な事情の際は施設の玄関先や玄関外で距離を離して面会を許可させて頂いております。その際も必ず手指消毒の実施、体温を測る、マスクをして頂く等の感染予防対策を条件としております。施設内に入ることは原則禁止としており、まん延防止等重点措置の期間では一度も施設内に入って頂いていないです。面会の代替えとしてはご家族様からお電話をして頂き、入居者様におつなぎして会話を楽しまれたり、お手紙を送らせて頂いたりしています。また必要な物資をお預かりする際にお伝言を預かり、その旨をご利用者様へお伝えしております。入居者様のご要望があれば速やかにご家族様に伝えることや孤独や寂しさが無い様に施設内で会話を多くしたり入居者様がお好きな音楽をかけたりするなどを取り組んでおります。

#### ご意見②

いつもお世話になっております。オミクロン株の感染拡大が続きます。感染予防対策

など大変だと思いますが引き続き実施お願い致します。(地域包括支援センター)

→②のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご質問ありがとうございます。今後とも引き続き感染予防対策を実施して参ります。

ご意見③

バタバタしており返信が大変遅くなってしまい申し訳ありません。毎回丁寧な報告ありがとうございます。

→③のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご意見ありがとうございます。今後とも引き続き感染予防対策を徹底して参ります。

## 5. 身体拘束適正化検討委員会の議題

### 議題 「せん妄における身体拘束について」

せん妄とは、何らかの身体的あるいは環境的な負荷が加わったことで急性の脳機能障害が起こるために生じる精神症候群のことを言います。軽度から中等度程度の突如発症する意識障害を中核症状として、注意や認知の障害を伴います。時間と共に症状は変動します。認知症と類似する症状が現れる為、せん妄なのか認知症なのかを見極めることが難しく、急に認知症になってしまったのではないかとご家族が驚かれることも少なくありません。せん妄はどんな年代でも起こり得る症状ですが、加齢による脳機能の変化が起きている高齢者には特に起きやすい傾向があります。

せん妄になる要因(因子)は主に3つに分類できます。①準備因子②促進因子③直接因子の3つです。例えば脳血管障害・認知症・高血圧などの慢性疾患・喫煙・アルコールの多飲・薬物乱用などが準備因子となります。促進因子には身体症状(便秘・尿閉・疼痛・脱水・視力障害・拘束・長期臥床)や、心理的社会的ストレス(不安や鬱症状)、環境変化(部屋の明るさ・騒音)、不快な感覚刺激(厚い・寒い・眩しい・暗い)などがあります。直接因子には、薬剤を使ったことによる副作用や電解質異常、呼吸器感染症や肺がんによる低酸素状態、手術、放射線治療などがあります。

では具体的にせん妄とはどんな症状として現れるのか見ていきます。

- ・「いま、何時なのか?いま私はどこにいるのか?」と日時・場所が分からなくなる。
- ・自宅にいるにも関わらず「今から家に帰る」と言い出す。
- ・「目の前に知らない人が沢山立っているよ」など、幻視が起きる。
- ・怒りっぽくなる。
- ・落ち着きがなくなり、動き回る
- ・言っていることと意味がつかない行動や言動をする。
- ・過去と現在を混同している。
- ・物忘れがひどくなる。

以上の症状はほんの一例ですが、短時間に出てきたり消えたり、他の症状に切り替わったりすることがあります。

ここまでではせん妄について述べましたが、では実際にせん妄を発症した場合、私たち介護職員やご家族など、周りの人はいったいどのように対応すれば良いのでしょうか？グループホーム小町としての「せん妄への対応策」を述べます。

グループホーム小町では、せん妄を発症した人への対応は身体拘束をせずに対応することができます。身体拘束をせずにどのようなアプローチをすれば対応ができるのかを常に考えて実践をしています。

《情報収集を素早く行い、チームケアできる体制を常に準備しておく》

まず、グループホーム小町では職員全員が、せん妄に対応する基礎知識とその人の日常生活パターンや既往歴、趣味や性格などを日々観察しています。それは何も特別なことをしているわけではなく、日々の食事量であったり、水分量、排尿、排便の量、家事やレクリエーションなどの活動を小まめに観察し、記録に残しておくことをしています。そうすることで特別な異変を早期に発見することができ、情報共有することもできます。「あれ？いつもとはちがう、おかしい行動だな。」「とても攻撃的で不穏になっているな。」「今日は何日なのか、いまどこにいないのかがわからない様だな。」といった内容も日々観察し、記録に書き溜めています。そうすることでその情報を医療職や介護職、ケアマネジャーやご家族にも共有することができ、せん妄に対するアプローチも迅速に対応する環境を整える様に行動しています。

《危険なモノがないか、周辺的环境を安全に整える》

動き回ったり暴れたりした際、本人や介護職員がケガをする様なものがないかをチェックして身近に置かない様に整理整頓をします。また、ベッドの高さも転落のリスクを考えて低めにしています。

《夜に覚醒してしまう場合は、体内リズムを整える様にする》

どうしても夜に眠れなくなったり動き回ったり騒いでしまう場合など、せん妄の過活動化が進行する場合があります。その様なときは日中に日の光を浴びてできるだけ活動的に体を動かしたりします。体を動かせない場合は、会話を楽しんでもらったり、音楽を聴いて楽しんでもらったりします。写真を見て頂いたりすることもします。そうすることで日中の活動量が増えて夜にぐっすり眠れるような環境づくりをします。昼夜逆転の現象は、せん妄を助長させてしまうリスクがありますので、体内時間のリズムを調整するようにします。

《つじつまの合わない話などは否定せず、指摘せず、しっかり傾聴する》

穏やかにゆっくりと話しかけ、背中をさすったり手を握ったりしながら傾聴すると効果的です。特につじつまの合わない、話している会話の言葉と意味が繋がらない場合、混乱している場合がありますので、出来る限り傾聴をします。誰かが近くに居てお話を聴いてくれる存在感が、ご本人にとって安心感につながり平穏な心を取り戻すひとつのきっかけとなります。

《水分補給や体調管理を行う》

せん妄を引き起こす要因のひとつに脱水があります。適度に小まめに水分摂取をすることで不安な気持ちや混乱していることも落ち着くことがあります。

また、便痛があるときも不穏になりやすいので環境を整えることでせん妄の予防につながる場合があります。

《身近な環境に触れる機会をつくる》

施設に入居していたりすると、なかなか家族に会えない様なことがあります。そういった場合は、例えば部屋に家族写真を置く、使い慣れた安心できる物を持ち込むなど、落ち着くことができる様な環境をつくることもせん妄の予防につながります。

《まとめ》

せん妄は認知症によく似た症状を引き起こす意識障害の1つです。脳の機能が低下している高齢者には起こりやすい傾向がありますが誰にでも起こり得る症状です。不安になって急に騒ぎ出したり、怒りだすこともあります。その様なせん妄の症状が出たとしても、身体拘束は一切せずにせん妄へのケアは可能です。本人が安心して穏やかに過ごせるような環境調整を介護の基礎知識と応用技術を使い、チームアプローチによって身体拘束を一切せずに対応が可能となります。

以上。

6. 次回会議開催予定日

2022年4月22日（金） 14:00 開催予定